

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

広南中学校区 校番 2 呉市立広南小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>9年間を通して、確かな学力を育成する</p>	<p>子供の問いを生かした「考える授業づくり」</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善</p>	<p>○昨年度に引き続き、3～6年生を中心に予習を行った。その結果もあり、予習を行い、課題意識を持って授業に取り組んでいるという児童の肯定的な評価が高かった。しかし、教師の見取りとしては、不十分な児童も多く、特に中学年などへの、書き方の指導や評価等、継続的な取り組みが必要である。</p> <p>○授業の中で自分の考えをもたせたり、全体で交流したりすることで、自分とは異なる考えやその良さに気付くことができている。しかし、自分の考えがもちにくかったりそれを表現できにくい児童もいる。</p> <p>○初見且つ学力テストのような形式(必要な情報を取捨選択し、読み取って、計算したり説明したりする)の問題に課題がある児童が多い。</p>	<p>○「分からないところに線を引く」「どこがどのように分からないのか言葉で書く」「自分なりに図や言葉を用いて説明する」等、学年に沿った予習のレベルを提示し、学校全体で取り組んでいく。また、クラス内、学校内で予習の様子を共有することで、児童も教師も共通認識を図り、学校全体での取り組みの向上を図る。</p> <p>○自分の考えをもてなかつたり表現が苦手な児童について、机間指導やノート等のコメントで励ましたり声かけをしたりしながら自信をもたせていきたい。</p> <p>○教科書の問題だけではなく、活用問題テストを意識した授業づくりを行う。また、ドリルタイムや広南タイムを活用し、過去問(学年や学校の課題領域)に取り組む。</p>
**	<p>礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する</p>	<p>基本的な生活習慣の定着</p> <p>体力の向上</p>	<p>○5つの合言葉を意識して生活する児童がほとんどであるが、学年によって肯定的評価の割合に差があった。</p> <p>○どの学年も「早寝」に課題があり、就寝時間が遅く、睡眠時間の短い児童が多い。</p> <p>○「メディア」の時間も長くなっていることから、就寝時間に影響していることが考えられる。</p> <p>○重点3種目の技能及び体力向上に向けて、体育科の授業改善を行った。また、業間運動を取り入れ運動量を確保することによって、昨年度に比べて記録の向上ができています。</p> <p>○低学年の長座体前屈や20mシャトルランに課題が大きい。</p> <p>○各学年でくれチャレンジマッチ5位以内を達成することができた。学校全体でくれチャレンジマッチの強化月間を設定し、体育科の授業だけではなく業間での長縄等の取組を行うことによって児童の記録向上への意欲も高まっている。</p>	<p>○さらに教職員間で共通理解を図り、統一して指導できるようにするとともに、学校全体でも5つの合言葉に触れて指導する機会を増やす。</p> <p>○「早寝」や「メディア」に課題があることを知り、「寝ること」の重要性を、保健便りや委員会活動等を通じて継続的に啓発、指導するとともに、懇談会等で保護者にも周知する。</p> <p>○体力向上に向けた業間運動の継続や技能習得のための体育科授業を各学年で展開していく。また、重点3種目においては2学期中に再計測を行い、取組の効果を確かめる。</p> <p>○2学期以降もくれチャレンジマッチの強化週間を設定したり、業間運動を継続したりする。各学年の記録や順位を学校掲示することで、児童の意欲向上をさせる。</p>
*	<p>自己有用感を高め、活力を生み出す学校をつくる</p>	<p>異学年交流や地域との交流活動を通じた資質・能力の育成</p> <p>児童の「自分の命は自分で守る」力の育成</p>	<p>○学園運動会を通して、1年生から9年生までの交流を深めることができた。各学年、教科の学習や総合的な学習等で地域の方と関わったり指導していただいたりすることで、児童の感謝の気持ちが高まっている。</p> <p>○中学校や地域の方と連携した防災教育の実施や学級指導等を通して、「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。</p> <p>○「土砂災害携帯マニュアル」の作成を通して、保護者と一緒に避難場所や避難経路、警戒レベルについて確認することができた。</p>	<p>○学園朝会や異学年交流を設定し、交流の場を増やしていきたい。また、引き続き地域の方と連携し、各学年の実態に合わせて交流を図っていく。</p> <p>○避難訓練や学級指導等を通して、「自分の命は自分で守る」という思いを維持できるよう、継続して指導する。</p> <p>○一時的な防災教育とならないよう、継続的な指導と、家庭への情報発信を積極的に行い、防災意識の向上を図る。</p>
業務改善	<p>働き方改革を推進する</p>	<p>長時間勤務の削減に向けた業務改善</p>	<p>○「児童と向き合う時間の確保」は、92.3%のA評価であった。</p> <p>○「時間外在校等時間が月45時間以内の教職員の割合」は、83.3%でB評価となった。</p> <p>○会議は終了時刻を意識して進めることができている。ICT活用により事務や授業準備の効率化等を図っている。月の半ば頃、時間外在校等時間が長くなっている職員に声をかけるようにした。長期休業中には、会議や研修の時間を集中的に行い、まとめて休暇を取ることができるようにした。</p>	<p>○学年末や行事前等の多忙な時期は放課後の時間確保や、退校時刻の声かけは継続する。</p> <p>○職員から出された「業務改善案」をできるところから取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布物の厳選 ・退校時刻の徹底 ・教室施錠と消灯 ・家庭学習の見直し ・不要な物を処分し、必要な物を分かりやすく整頓 など